

4 理念と方針

4-1 基本理念

本整備では、史跡の本質的価値を守り伝えるための基本理念を以下のように掲げる。

英彦山の信仰を支えた空間と賑わいを回復し、周辺地域の象徴としての英彦山の再興を図り継承する。

英彦山は古代から現代まで続く信仰の山であり、我が国有数の修験霊場として、添田町だけでなく周辺市町村を含む広域の象徴的存在である。その山頂の聖域から門前町までを含む独自の修験集落の「空間」とそれを構成する要素を適切に保存していく。

また英彦山は、英彦山神宮や周辺地区による祭事・芸能などが盛んに行われ、昭和30年代までは観光地としての賑わいを見せていたが、現在は観光者が減少している。そのため、歴史文化を基軸にしつつ、店舗や宿泊施設等の新たな時代に対応した「営み」により賑わいを取り戻していく。

さらに、本史跡は、指定区域の多くを英彦山神宮が所有し、参道沿いの宿坊跡もそのほとんどが個人によって所有、守られてきており、近年は英彦山門前町同好会をはじめとする地域により熱心な継承活動が行われている。そのため、整備にあたっては既存の地域活動やこれからの活用の担い手となる「人」と連携しながら、史跡英彦山の再興を図っていくものとする。

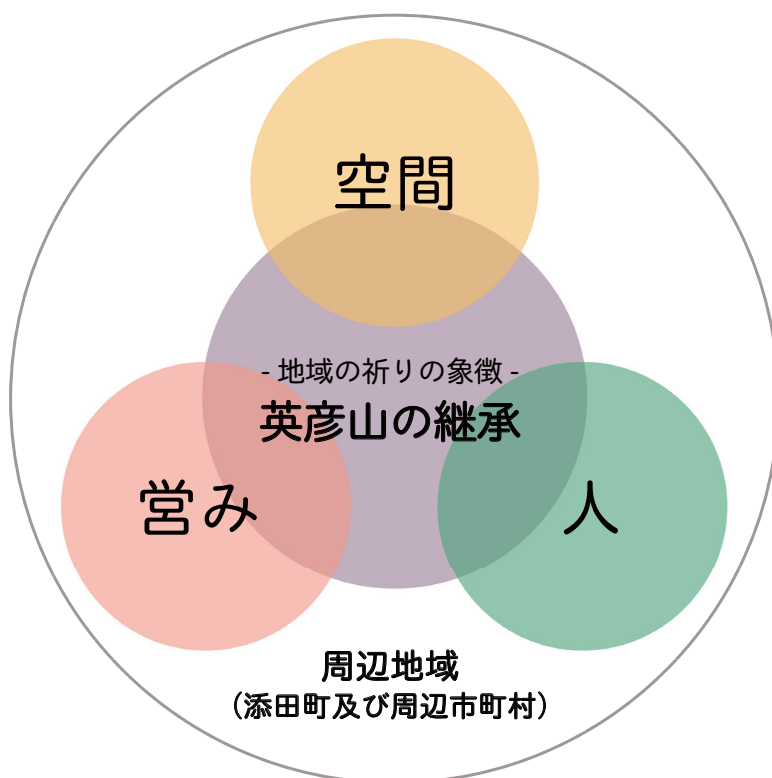


図4-1 基本理念の概念図

4-2 基本方針

(1) 保存整備

遺構を適正に保存しつつ、来訪者が快適に体験できるよう整備を行う

史跡指定地は概ね良好な状態で遺構が残されているが、今後も多くの来訪者が安心して英彦山の魅力を体験できるよう、毀損の恐れがある箇所は保護した上で、今後の活用を考慮しながら適切に整備していく。

- 崩れや倒壊の恐れがあるものについて必要に応じて修復し保存する
- 来訪者増加による踏圧や崩れを防ぐ措置を図る
- 現地における保存が困難な遺構や遺物は、収蔵環境の整った施設にて保存する
- 景観を阻害するものについては取り除くか、色彩や素材等を統一する
- 英彦山の四季を通じた自然の魅力を体現できるような整備を行う

(2) 活用整備

来訪者や地域住民へ史跡の価値をわかりやすく伝え、見学や体験するうえでの安全を確保する

英彦山は、史跡指定以前から登山道としての整備や部分的には案内・解説板の設置が進められてきた。本整備では、それらの既存整備との調整を図りつつ、古代から現代までつづく歴史上の価値及び建造物や庭園、美術工芸等の学術上の価値をわかりやすく伝え、さらに来訪者や地域住民の安全を確保する視点から整備を行う。

- 史跡を適切に案内し、本質的価値の理解を促す案内・解説施設を整備する
- 来訪者にとってわかりやすく、安全に移動できる動線を整備する
- 既存施設を活用した、来訪者へ史跡の価値をわかりやすく伝えるためのガイダンス機能を導入する
- 地域住民と町で協働で行う史跡の管理活動等のための、活用拠点を整備する
- 歴史を感じられる素材などの使用を検討し、かつての姿の理解を補完する遺構表現を行う
- 場所ごとに史跡の価値を分かりやすく理解でき、楽しめる演出を積極的に図る

(3) 周辺地域や関連機関との連携

周辺地域や関連機関と連携した整備・活用の促進を図る

史跡指定地は、多くが英彦山神宮をはじめとする民有地である。また、指定地内には九州大学農学部附属彦山生物学実験施設が存在するほか、これまで史跡に関する調査において様々な研究機関が英彦山に関わっている。そのほか英彦山にまつわる歴史文化を継承する地域団体における既存の催事等を活用するなど、それら周辺地域や関連機関との連携を図ることで再興を図っていく。

- 英彦山神宮や宿坊跡の所有者等と連携した整備を行う
- 地域団体における既存の催事等と連携した史跡の活用を促すための整備を行う
- 宿坊跡における民間活力を活かした整備を促進する
- 大学や研究機関との連携により活用を図る
- 行政だけでなく周辺地域の人に関わることができる仕組みづくりや体制づくりの促進を図る
- 行政と地元地域で連携し、史跡に関わる催事の周知や情報発信の充実化を図る
- ホームページやSNSのほか、デジタル技術を利用し、情報発信の仕組みづくりを行う

5 整備基本計画

5-1 全体整備計画

本計画における整備対象地を主要な拠点や動線から導き出し、対象地全体に共通する整備内容を目的ごとに示す。

5-1-1 整備拠点と動線計画

文化資源を活かし、史跡英彦山の修験道の歴史文化を具体的に体験、理解できる整備を行っていくために、整備対象地に含む拠点と動線を次のように整理し設定する。

①歴史・文化の拠点

銅鳥居から英彦山神宮上宮までの間に点在する、史跡英彦山の価値を構成する主要な要素を含む拠点として位置づける。史跡の保存修理と活用のための整備を行う。

〔対象地区〕 山頂聖域／修行窟／英彦山神宮／座主院跡／門前坊舎

②活用の拠点

史跡を公開活用していくための拠点として位置づける。来訪者が快適に過ごせるための便益施設を整備し、また史跡の歴史文化や価値への理解を促すために花駅（旧英彦山小学校）に展示・ガイダンス機能を集約し、英彦山修験道館は収蔵機能を中心とした施設へと整備するなど、ガイダンス機能等の整備を行う。

〔対象地区〕 花駅（旧英彦山小学校）／英彦山町／英彦山修験道館／銅鳥居周辺駐車場

③主動線

門前町から山頂へ至る、銅鳥居、石鳥居、木鳥居を繋ぐ英彦山修験道の独自性のある空間構造を体験できる動線として位置づける。来訪者が遺構を壊さずに目的地へと安全に歩いて行けるための整備や、毀損している遺構の保存修理を行う等、参道や登拝道に係る修景、整備を行う。境内と門前領域の参道においては「添田町歴史的風致維持向上計画」（歴まち計画）、山中行場の登拝道においては九州自然歩道として整備されている。

〔対象地区〕 参道（境内と門前領域）／登拝道（山中行場）

④目的別動線

主動線上から離れた地点の歴史・文化の拠点へと繋ぐ動線として位置づける。座主院跡と修行窟の両史跡を積極的に公開活用していくために必要となる、足場や誘導サイン等の整備を行う。座主院跡へと続く動線においては既に舗装整備がされている。

〔対象地区〕 参道から座主院に至る動線／英彦山神宮から修行窟に至る動線